

# 私から見た 土地改良

## 翻訳家

## デイヴィッド・ユーンニス氏

## に聞く

## 富山和子先生の 日本の米カレンダーに魅せられて

聞き手 ● 鮫島信行

鹿島建設顧問

東京農業大学非常勤講師

地籍問題研究会副代表幹事

写真右 鮫島信行

写真左 デイヴィッド・ユーンニス氏

富山和子先生が一九九〇年から作成されてきた「日本の米カレンダー」も今年で二八年になる。写真に添えられた富山先生のメッセージには英訳が付けられ、EUやOECDなどの外国政府機関や国際機関にも送付され、日本の米文化とともに水田の多面的機能についての理解へとつながっている。

富山先生の文章の翻訳には、日本の文化伝統や農業・農村に対する高い見識が求められる。初代のブルース・ベインに続いて、一九九八年から翻訳を担っているデイヴィッド・ユーンニス氏に、米カレンダーの翻訳にまつわる思い出や日本の農業・農村に対する想いを伺った。

聞き手は、当初から「日本の米カレンダー」の作成をサポートし、富山先生と翻訳者の通訳の役割を担ってきた鮫島信行氏。

## 米カレンダーの翻訳を始めて 二十年

鮫島 今日遠いところわざわざありがとうございます。さきほどは雨の中の棚田歩きご苦労様でした。お会いするのは初めてですが、毎年「日本の米カレンダー」の翻訳でメールのやり取りをしているので、初めてという感じがまったくしません。

デイヴィッド (David Eunice) そうですね、私も同感です。いつも親切な応対をしていただいていますか？という方かな？と思っ  
ていましたので、お会いできてとてもうれ  
しいです。

鮫島 翻訳者と監訳者はアイデアを共有し合  
わなければいけないので、お会いできて何よ  
りです。今日は、メールで呼んでいるデイ  
ヴィッドで進行させていただきます。

実は、デイヴィッドがいつから翻訳を始め



滋賀県大津市の仰木の棚田



仰木の柵田を見おろせるカフェ・キマツシにて対談

たのか、私の記憶にはないんです。富山先生に聞いても分からないし、宇野さん（平成四年版から二十四年版まで「日本の米カレンダー」を出版していた株式会社サン制作の宇野淳夫社長。現在は国際カレンダー株式会社に引き継がれている。）に聞いても分からない。ところが今日持ってきた、米カレンダー一〇周年記念の写真集「水と緑の国、日本」のカバー裏に、デイヴィッドがちゃんと書いてあるんです。

**デイヴィッド** 何と書いていましたか。

**鮫島** ブルース・ベイン (Bruce Bain) から引き継いで一九九八年版から翻訳を始めたか書いています。それで二〇年のお付き合いだと分かりました。

**デイヴィッド** 自分でも忘れていましたが、記録を残すことは大事ですね。

**鮫島** さて、早速本論に入りたいと思います。まず、今日の場所ですが、仰木の柵田の中にあるカフェ・キマツシを選んだのは意味があります。二〇年カレンダーの翻訳をやっている、デイヴィッドは本物の柵田を見たことがないのではないかと。そう思って、ここから見える八王子山の柵田を先ず歩いてもらいました。雨で大変でしたが、柵田の水がどこから来るか、ずぶ濡れになりながら探していましたね。

**デイヴィッド** 富山先生は、カレンダーの中で水源のことをよく書かれます。だから柵田の水がどこから来るかどうしても確かめた

かったんです。

**鮫島** それで、柵田を上りつめて、最後に見つけた。

**デイヴィッド** ありました。うれしかったです。

**鮫島** 天気が良ければあの場所からは仰木の柵田が一望できるし、はじめに寄った一本桜もゆっくり見れず残念でした。

**デイヴィッド** 残念ではありません。雨の中だからこそ、柵田での農業の厳しさが感じられたと思います。

**鮫島** そう言ってもらおうと案内した甲斐があります。実はあの柵田は二年前に耕作放棄になったんです。

**デイヴィッド** オーナーが亡くなられたんでしょうか？

**鮫島** そうではありません。高齢になり、あの急傾斜での作業が出来なくなったんです。それでも草刈りだけはされているんです。柵田は風景としては美しいですが、厳しい現実もあることを見てもらいたかったです。

**デイヴィッド** インターネットで見ると、堅田の若い人たちがボランティアで耕作しているようですが？

**鮫島** 私も見ました。でもそれはほんの一部で、すべてではありません。この風景を守っていくことは並大抵の努力ではありません。

ところで、翻訳を始めたころは河内に住んでおられましたね。あの時のメールのネームは、「Sign painter to the stars」、あれはど

んな意味だったんですか？

## 私はサイン・ペインター

**デイヴィッド** 昔、映画の宣伝は映画館の看板も含め手書きで、看板書きの仕事です。私の仕事も翻訳だけでなく「copy edit」、いろんな原稿の手



棚田の水はどこから来るか確認するデイヴィッド

直しもします。スペルだけでなく……。

**鮫島** 中身まで手を入れる……。

**デイヴィッド** うーん、中身というか、例えば原稿を書いた人がこのことが言いたかったが、時間がなく上手く表現できなかったとします。そこで私は文章の調整をしたりアイデアの流れや文章のリズムなど、いろんな工夫をします。でもアイデアはご当人のものですから、クライアントがスターであり、私はサイン・ペインター。富山先生もスターです。

**鮫島** なるほど、そういう意味ですか。

**デイヴィッド** 私のインスピレーションは入りませんが、アイデアはスターのもので。それに同調できないときもあります。でも、富山先生の主張には共感が持てます。先生の意思の強さも尊敬に値します。

**鮫島** 先生は、毎年の写真の選定には大変なこだわりをお持ちです。執念っていうか、英語では何て言うんでしょうか。

**デイヴィッド** 「fussy……」。

**鮫島** ファシーというと、口やかましいとか……。

**デイヴィッド** そういう意味合いもあります……。

**鮫島** なかなかウンと言わない……。

**デイヴィッド** 説明すると難しいですが、私も何も言わない時でも、ある人たちはときどき私のことをファシーと言います。でもそれは私が見た拒否するからなんですよ、例えばその人たちが食事をするのに勧める所とかについて。私はベジタリアンではありませんが、ベジタリアンの友人も

やはりファシーと言われたりします。ですがそれは、物事にこだわるというよりむしろ自分たちのする選択に強い意見を持っているということなんです。

## 好きな米カレンダーの写真

**鮫島** 写真の選定には私たち何人かが加わりますが、私たちが選ぶ写真の採用率は半分ぐらい、先生は、やはり写真が一番大事だとおっしゃいます。**デイヴィッド** 先生は、写真を見て文章にできないものは採用しません。

**鮫島** そうなのです、写真がどんなにきれいでも、先生に書く気持ちを起こさせるものがないとダメです。そこは、私たちは口をはさめません。

**デイヴィッド** 写真はきれいでも、例えば、二〇一七年十月の「稲干し」（新潟県長岡市）は私の一番好きな写真です。

**鮫島** どこがお好きですか。

**デイヴィッド** 物語があります。信じられないほど大きな稲干台を、ご夫婦でしょうか、二人で作られたご苦労の話があり、長い間、生命を育んできた様子が、語らずともよく分かります。

また、合鴨はかわいらしく、面白かったですね。

**鮫島** 二〇一六年六月の「那須野が原」（栃木県那須塩原市）の作品ですね。

**デイヴィッド** 写真としては、決してパーフェクトではありませんが、大好きです。

**鮫島** 先生も、これを表紙にも使っていますから、大好きだと思います。



「稲干し」(新潟県長岡市) 2017年10月 撮影:佐藤尚

魚野川が信濃川に合流する川口町は  
かつてここから先、海だったところ  
荒屋遺跡からはおびただしい旧石器が出土して  
シベリア、アラスカなど  
遠い北国とのつながりを思わせる  
そして近くは棚田や錦鯉の町  
2004年の大地震では震源地  
世界有数の地すべり地帯として知られた  
けれどこの季節、知っていただきたいのは  
やはりこの風景に違いない  
低い土地で集めた稲を  
風通しの良いところまで持ってきて  
阿吽の呼吸で干す  
日本人なら誰もが知っている優しさ  
稲作民族の優しさだ  
はざかけの日あつまった農家たちは  
この日写真を撮るときいて  
木の梯子を用意してくれた

**October • Rice drying.  
Nagaoka City, Niigata Prefecture**

Where the Unono-gawa flows into the Shinano-gawa at Kawaguchi, the sea used to reach to what was a river mouth. From the Araya Site here, Paleolithic tools have been unearthed. Resembling stone-blades found from Siberia to Alaska, they are possibly evidence of ties to places far to the north. The nearby terraced fields and koi ponds of today, in 2004, were at the center of the powerful Chūetsu earthquake; the area then became world famous for its landslides. But what we should think of during the autumn are scenes, like this, of rice gathered from lowland fields. Cultured through tacit understanding, brought to places well traversed by breezes, the grain is dried by breaths of wind. This fastidiously gentle care is known to everyone in Japan: it is a gentleness typical of people who grow rice. On the day of the photo shoot, the farmers who came to hang sheaves of rice on the *hazakake* drying frames even set up a wooden ladder for use by the photographer.

「カモ、カモ、カモ」という部分を「Duck. Duck. Duck.」ではなく、「Come on. Come on. Come on.」と翻訳されたのはよかったです。  
**デイヴィッド** ありがとうございます。日本人の読者にも「カモ、カモ、カモ」と、「Come on. Come on. Come on.」の言葉の持つ響きが意味も含めてどれだけ似ているか分かって頂けたらと思

いました。それは翻訳の別の一面です。この写真も素晴らしい。  
**鮫島** 談山神社の「荒稲」ですね。二〇一六年一月の作品「神饌・神々との宴」(奈良県桜井市)の神饌はすごいです。  
**デイヴィッド** このお供えは何とも言えぬ不思議なもので、富山先生の前稿を読むと理解できます。

私が談山神社に行った時は、ダイコンとか、いろいろな種類がありました。このような神饌の有り様は世界のどこにもありません。とても面白い。  
**鮫島** カレンダーの作品の撮影場所に行かれたことがあるんですね。  
**デイヴィッド** 二〇一〇年版の七月の飴肥杉(おびぎ)に見に宮崎県にも行きました。  
**鮫島** 私もいくつかは行きましたが、デイヴィッドには負けますね。

さてここで、私とカレンダーの出会いについて少しお話ししたいと思います。「日本の米カレンダー」は、一九九〇年版を、(株)ジャパンプレスフォトが創刊し、一九九二年版より株式会社サン制作が刊行することになりました。私がこのカレンダーに初めて関与したのが一九九二年版です。一九九〇年にタイから帰ってきて、その年の十二月、富山先生の講演会に参加しました。講演会に行ったのは、愛媛県宇和町の田園風景を撮った写真集をカレンダーに採用してもらおうと思ったからです。「あなたは誰なの」と聞かれ、「鮫島と言います。タイに三年赴任し国連を担当していました」と応じますと、「鮫島さん、いいところに来たわね。米カレンダーの私の文章を英訳したいので手伝ってください」、「はい、わかりました。お手伝いさせていただきます」。このように弟子入りしてはや二七年、ずっとお手伝いさせていただいています。翻訳家探しは、当時(一九九一年)、オックスフォード大学の留学から帰国し、同じ農水省国際部に勤めていた和泉真理さん——彼女のご主人はイギリス人ですね？

デイヴィッド そうです。

## ブルース・ベインからのバトン

鮫島 その和泉真理さんに相談し、ブルース・ベインを紹介いただきました。ブルースにお会いし

たことはありませんでしたが、すごい人でした。

デイヴィッド 彼の日本語力は素晴らしかった。

私にとっても大好きな友人の一人でした。

鮫島 ブルースがすごいと思ったのは、例えば、一九九三年三月の「レンゲ畑」(鹿児島県国分市)の作品で、レンゲ畑の中に円形のくぼみが並んで

いました。それを国分寺の「foundation stones」(礎石)ではないかと言っています。県に調べてもらい、

藁小積みの跡ということが分かりましたが、ブルースはそんなところまで見ていたのです。また、

奈良県に水分神社という神社があります。原稿には「みずわけ」とふりがなが付いていましたが、ブルースから、〃みくまり〃の誤りではないかとメールが来ました。日本人でも知らないことを、どうしてイギリスの人が知っているのか、驚きました。

デイヴィッド 彼は漢字が大好きでしたから。文法も好きでした。モンゴル語も勉強し、ベトナム語も翻訳しました。

鮫島 私たちの中では、ブルースは語学の天才だという話でもちきりでした。本当に惜しいひとを亡くしたと思います。その後、デイヴィッドは、一九九八年からですね。デイヴィッドを紹介してくれたのも和泉さんですか？

デイヴィッド そうです。私の妻と和泉さんは、今日も一緒に京都の大原へ行っています。

鮫島 デイヴィッドもオックスフォード大学の出身なので、その時に和泉さんと知り合ったんでしょうか？

デイヴィッド そうです。和泉さんとも、御主人ともそれ以来ずっと家族ぐるみで親しくしています。二人とも大切な友人です。

鮫島 ちょっと脱線してしまいましたが、他に好きな写真は？

デイヴィッド 私の親しいイギリスの友人が好きなのは、表紙を飾った二〇一五年六月の「若宮井



「那須野が原」(栃木県那須塩原市) 2016年6月 撮影：大塚知則

合鴨を撮るのは難しいと写真家は言う  
近づけばいっせいに逃げてしまうし  
稲が成長すれば今度は見えなくなる  
見かねた農家のご主人が  
カモ、カモ、カモ、と呼んで畦を進むと  
鴨は飼い主の後を追いかけて撮れたのがこの作品だ  
ここは広大な那須野ヶ原  
かつては水がなく  
茫々たる荒野だったところを  
緑の大地に変えたのが有名な那須疎水だ  
この新しい大地では  
労多く敬遠されがちな合鴨農法にも  
このように挑む農家があるし  
更には用水事業を中心に  
林業と水、水力、太陽熱、バイオマスなど  
知恵と技術を総合させての壮大な夢  
「米と電気は自分で作る」との理想を掲げて  
事業が始まっている

### June • Nasunogahara. Nasushiobara City, Tochigi Prefecture

It's hard to take a good picture of *aigamo* ducks.  
When you get close, as one, they turn tail.  
Then they are easily masked by clumps of growing rice.  
Taking pity on the cameraman, a farmer walked along the field bank calling, "Come on! Come on!" As the ducks flocked to their master, this moment was captured.  
Once, the expansive plain of Nasunogahara was a vast wilderness.  
The construction of the Nasunosui irrigation system helped transform unproductive heath into today's thriving farmland.  
In this new and open land, farmers have risen to the challenge of finding new methods, such as using ducks in rice fields: *aigamo* farming, which saves weeding, was developed here.  
Local people now have grand dreams of combining skills and knowledge to make the most of their resources in projects including forestry, water power, solar heating, and biomass.  
These new projects are going forward with determination "To grow our own rice and generate our own electricity."



「神饌・神々との宴」(奈良県桜井市) 2016年1月 撮影：井上博道

茗荷の葉をまとめた芯に  
芒のついた米粒を重ね  
台座には銀杏や榎の実を  
天頂にはホオズギを添える  
談山神社の嘉吉祭の  
華麗なお供えだ  
芒の数だけ米粒があり  
その数四千から五千  
氏子たちは伝統を受け継ぎ  
精神を集中させて作る  
かつて市場開放問題の講演で  
奈良に招かれた時  
能舞台のある美しい会場で  
もう一人の講師、井上博道は  
この写真をスクリーンで見せて  
日本人の米への思いを熱く語った  
今、当時危惧した以上に  
農業も国土の環境も厳しく  
更にTPPが追い打ちをかけている  
日本の米の文化が  
最初に花開いた都、奈良  
そのロマンを胸に  
新たな年の難題に挑む

**January • Shrine offerings: a banquet for the gods.  
Sakurai City, Nara Prefecture**

From a base of ginkgo nuts and *kaya* seeds, pressed into a core of Japanese ginger leaves, a fuzzy column of bearded rice grains from an ancient cultivar rises to veil a Chinese lantern crown: this offering is made for the Kakitsu Festival at Tanzan Shrine. Four or five thousand in total, each long-bristled rice grain is carefully inserted by parishioners who focus their spirit to follow local custom. Once, I was invited to speak in Nara about market opening. The venue was a Noh stage. In this beautiful setting, photographer Hakudō Inoue projected this picture on to a screen and spoke about rice and what it means to people in Japan. Since then, pressure has increased on farming, on land, and on the environment. Now, the TPP threatens to deliver more blows. As you face the challenges of the year to come, take heart from this offering, still made where rice culture first flourished in Japan.

**翻訳の難しさ**

**鮫島** 最近の作品で私が一番思い出に残っているのは、二〇一五年四月の「湖国の桜」(滋賀県高島市)です。最初のタイトルは「琵琶湖畔の桜」でした。でも、どう見ても琵琶湖畔ではありません、と富山先生に言いました。水田に映る桜であって、琵琶湖畔でないことは一目瞭然です。このまま翻訳してしまうと、外国の人には分からない。そこで、琵琶湖畔の代わりに「湖国」ではどうかと提案しました。先生は私の提案を受け入れて下さいました。「湖国」は琵琶湖のある滋賀県の別

す。先生は、一月から十二月のいずれかの写真を表紙に選ぶのですが、この年は例外的に原発事故で避難した村の写真(取り残された牛の群れ)を使いました。それだけ特別の思いがあつたのでしよう。現在、飯館村は避難指示が解除され、一応安全レベルが確保されているとされていますが、放射能がすべてクリアになったわけではありません。六人、村民はあまり戻ってきていない状況です。六年経ち、避難先での生活に慣れ、子供たちは友達がいるし、お父さんには職場があります。  
**デイヴィッド** 子供たちを戻すことは、きっと不安だと思います。  
**鮫島** 安全なレベルと言っていますが、親は不安かもしれません。どうしても戻らなければならぬ理由があれば戻りますが、そうでなければ戻らない、という人も多いと思います。ともかく、この表紙は特別なものでした。

路笹無田石棋橋」(大分県竹田市)の作品です。  
**鮫島** どこがお気に入りなのでしょう。  
**デイヴィッド** 彼は写真にある電車が気に入ってました。センチメンタルリズム(感傷主義)だけど色彩もコンポジション(構図・構成)もとてもいい。これも水路ですね。  
**鮫島** 電車はあくまでもおまけです。  
**デイヴィッド** おまけだけど大切な情景、これがないと写真が少し物足りないものになります。  
**鮫島** 他には。

**デイヴィッド** 二〇〇〇年三月の「葛城の春」(奈良県御所市)のレンゲの風景。同じ年の一月の「相杜八幡宮の神馬」(山口県周東町)の馬もとてもかわいい。二〇〇八年三月の「菜の花と菊桃」(広島県世羅町/旧甲山町)の景色も美しいですね。  
**鮫島** 先生はこの風景から反核や平和を書き起こされています。広島ですから。反核でいえば、二〇一二年の表紙となった「までの村/福島県飯館村」があります。「までい」とは、「ゆっくり」「ていねいに」という意味の福島県北部の方言で



「菜の花と菊桃」(広島県世羅町) 2008年3月 撮影：黒田績生

標高四百メートル、ここ世羅高原は生産から加工、販売、観光までを一体化させた町ぐるみの活動で知られ梅、桃、藤、梨、りんご、栗などの果樹園群で花とフルーツ狩りの季節は圧巻だ観光農園の花園から出て来た客の中には「仕事を辞めるつもりだったが思い直した」というナース挫折した人生、もう一度やり直してみると男泣きに泣く中年の姿もあり「この花園、神様いるね」と中国青年はいう「かえってお客様から農業というものの優しさを教えられる」とは、農園主の感想だ菊桃は昔からよく植えられた観賞用の桃この花園のやさしさは「非核・平和の町」宣言のこの町のやさしさでもあるのだろう

**March • Rape flowers and peach blossom Sera Town (formerly Kozan Town), Hiroshima Prefecture.**

Located 400 meters above sea level in the Sera Highlands, Sera Town is well known for integrating local business activities. From production and processing, to sales and tourism, town-wide operations are coordinated. Activities peak when chestnut, wisteria, plum, peach, nashi, apple, and other trees are in blossom or bear fruit. From the flower gardens of local sightseeing farms, visitors emerge deeply moved. One nurse declared that she reversed her decision to quit healthcare. Weeping, a middle-aged man, vowed to turn his shattered life around. A young man from China felt a divine presence in the garden. Because of these effects on visitors, the farm owner says he is continually reminded of the gentle bounty of agriculture. Here, where handsome peach trees with admired chrysanthemum-petal blossom have long been planted, in its Peace Declaration, the town also expresses gentleness.

称で、先生のお気持ちを表現するのに合致した言葉と思いました。

デイヴィッドの翻訳も素晴らしかった。「…へんがら格子の家並みと桜並木の街道が湖の奥深くまでつづき…」の部分です。

**デイヴィッド** 「I found, even along the far

northern shore, streets of houses fronted by russet-painted lattices, and rows of cherry trees.」

鮫島 「Russet-painted lattices」は、私ではとても思いつかない。

**デイヴィッド** 時間がかかりました。

鮫島 こんな言葉を使われるのは、すごいなあと感心しました。

琵琶湖は、京都と日本海を結ぶ水の道です。富山先生は、日本海を見ると京都を想うとおっしゃいます。若狭から川に沿って舟で海産物などを運び、舟が使えなくなると馬に積み替え峠を越し、それからまた舟を使って琵琶湖に出て、あるいは谷沿いの道をたどって京都に到る。この街道沿いの桜がテーマでした。日本海と京都が繋がっているの、先生は日本海を見ると、京都を想われるわけです。日本海文化論という言葉がここから生まれます。一般の人が日本海を見ても京都を想わないでしょうが……。

**デイヴィッド** むしろ最近鯖街道が取り上げられる機会が増え、多くの方々が関心を寄せてきているのではないかと思います。富山先生の主張されていることが、広まってきているのではないのでしょうか。関西で仕事をしているせいか琵琶湖に関する翻訳をする機会が多いのですが、琵琶湖が持つ多彩な役割に驚かされます。

鮫島 翻訳の難しさとはなんでしょうか？

**デイヴィッド** 富山先生の言葉をいかに海外の人々にも理解していただき、そして楽しんで読んでもらえるように翻訳するかということです。ただ、英文は一七行以内にしてくれと出版社から言われているので、そこに収めるのが難しい。先生原稿が以前より長くなっているの……。

鮫島 昔と比べると確かにそうですね。翻訳したものは英国人にも海外の人々にも読んでもらっているのですか？



「レンゲ畑」(鹿児島県国分市) 1993年3月 撮影：菌部澄

れんげ草は水田の肥料。  
日本中の平野が田植え前、  
この紅の色で染められたものだった。  
ここは昔、大隈の国府の置かれた  
南九州の中心地。  
そんな時代から人々は  
鹿児島特有の火山灰土、シラス台地と  
たたかかって  
土作りを重ねてきた。  
この見事なれんげ畑は  
水田というものが、  
何百年、何千年も労働を投じつづけた  
その歴史のたまものだと  
教えている。

**March • -The renga-flower (astragalus sinensis)  
Kokubu District, Kagoshima Prefecture**

In the old days, paddy fields before the planting season used to be bright pink with this flower. Twelve hundred years ago, the regional capital of the ancient district of Osumi stood near this spot in southern Kyushu. The local people of these early times, struggling to make good farmland out of unpromising volcanic and sandy soil, discovered that planting the renga-flower before the main crop made the land more fertile. Centuries of unremitting toil lie behind this simple scene.

**デイヴィッド** 少なくとも一〇人位には毎年カレンダーを送っています。イギリスをはじめ、スペイン、アメリカ、カナダ、そしてニュージーランドにも。

**鮫島** 送るカレンダーは出版社からもらっている？

**デイヴィッド** 自費です。特別価格で購入させていたでいます。自分で一冊づつ紙筒に梱包して、郵便局に持って行っています。

**言葉の選び方**

**鮫島** そうなんですか。話題は変わりますが、里山という言葉は、そのまま訳したらイギリスの人には分からないでしょうね。

**デイヴィッド** そうですね。「managed woodland」か「common woodland」かな。forestではありません。

**鮫島** 「common woods」は里山という感じがしますか。

**デイヴィッド** 木ばかりではなく、キノコやワラビなどさまざまな種類の植物が共存しています。

里山は「woods」だけではなく。「managed village woodland」も言えます。

**鮫島** 「village woodland」ではどうですか。

**デイヴィッド** 「village」の意味は何でしょうか。文化が違いますから。

**鮫島** 「village」だけでは分からないか。「village woodland」や「common woodland」のほうがいいでしょうか。

**デイヴィッド** 「common woodland」の方が分かりやすいと思います。里山は難しい。「village sea」では通じない。

**鮫島** 数年前でしたか、「祖谷のかずら橋」の作品では、デイヴィッドが「valley」を使うと、私が「gorge」ではないかとメールでやり取りしました。私はアメリカのユタ州の大学にいた頃、キャッシュ・バリー「cache valley」に住んでいましたが、近江平野ぐらいある「valley」です。アメリカの「valley」は広大です。祖谷溪は幅一〇〇mといっ

たところでは。

**デイヴィッド** それをイギリスでは「valley」と言います。「gorge」は垂直な角度で登るには難しい谷を指します。だから、祖谷溪は「valley」です。

**鮫島** 「canyon」ではないですか。

**デイヴィッド** 「canyon」はスペイン語です。アメリカにはありますが、イギリスには全然ありません。

**鮫島** 小川は「stream」を使っていますが、「river」との使い分けはサイズの問題ですか。

**デイヴィッド** なかなか微妙です。見たことがな

いと、比較できず難しい。

**鮫島** 同じ小川でも「brook」はどうですか。

**デイヴィッド** 内容にもよりますが、「brook」は「stream」よりも小さな川です。「brook」はせせらぎの音のイメージがあります。「stream」は流れの意味もあり、「jet stream」(ジェット気流)のように、水以外にも使います。

**鮫島** 「brook」はイギリスでよく使われるのですか。

**デイヴィッド** 地方の川にはよく使われます。近頃では詩的なイメージがありますが、文語的な言葉でもあります。

**鮫島** 「creek」は..

**デイヴィッド** 「creek」も地方にある川ですが、私の頭の中ではあまり動かない水をイメージしています。「creek」は河口の平らなところであり動かない水、いわゆる「side river」でしょうか。

**鮫島** ユタ州での「creek」の流れは速かった。

国によって言葉の意味も微妙に違いますね。

日本の市町村は「city, town, village」と翻訳されますが、村は、行政の村とフィーリング的な村として使われる場合があります。村と書かれていても村ではないかもしれない。行政では市の一部になっていても、そこだけを見ると「village」.....

**デイヴィッド** そういうところのイメージを伝えるのは非常に難しい。ハムレット「hamlet」(集落)？では

**鮫島** ハムレットは何戸くらいですか？

**デイヴィッド** 二〇戸以下というところでしょう



「湖国の桜」(滋賀県高島市) 2015年4月 撮影：室田康雄

**April • Biwa Lakeland cherry blossom. Takashima City, Shiga Prefecture**

Long ago, just after the Kosei Line opened, I traveled along the new railway to explore the western shore of Lake Biwa. I found, even along the far northern shore, streets of houses fronted by russet-painted lattices, and rows of cherry trees. This inspired me to think about the Culture of the Japan Sea and to write a series for *Bungeishunju*: 'A Cultural History of Water'. Transhipped from packhorses, cargoes of rice shimmered on the lake, en route to nourish the populations of Nara, Kyoto, and Osaka. In ancient times, Lake Biwa was a major place of transit, but recently it has been turned into a reservoir. While this new role has ruined the appearance of the shoreline, unchanged scenes of forest, water, and cherry blossom still endure. Flowering cherries are part of Rice Culture. As long as Japan grows rice, pink blossom will greet the spring. The photo was taken near the Adogawa River. Sponged up by the upland forest, water infiltrates to the river and is drawn to irrigate rice. After pooling in the lake, water flows out to supply 14 million people in the Kinki Region.

昔、開通したばかりの湖西線に沿って琵琶湖巡りをすると  
べんがら格子の家並みと桜並木の街道が湖の奥深くにまで続き  
その驚きが  
わが日本海文化論『水の文化史』を雑誌文藝春秋に連載させた  
奈良、京、大阪を養うため  
日本中の米を集めてかがやいた湖  
古代日本の交通の要だった琵琶湖  
いま湖は水ガメとして開発され  
湖岸の姿も役割も激変したが  
森林と水と桜の風景だけは変わらない  
桜は米の文化  
日本人が米作りをつづける限り  
桜の風景もつづくだろう  
写真は安曇川沿いの桜  
森林に養われた川の水も  
水田の水も湖の水になり  
近畿千四百万人のいのちを養う

か。

**鮫島** 農村という言葉ですが、「rural, pastoral, countryside, backcountry……」。

**デイヴィッド** 「pastoral」ではありませんね。

**鮫島** 「pastoral」は牧場という雰囲気ですか。

**デイヴィッド** 「pastoral」は、大都市から見た田舎。交響曲田園のように、みんながハッピーに暮らしているようなイメージです。「rural」は具体的な田舎のイメージ、たぶん日本の田舎は「rural」です。イギリスでは支配階級が田舎に住んでいることも多い。それがステータスです。イギリスと日本の田舎は全然違う。

**鮫島** 「countryside」はアメリカの言葉ですか。「central」中央に対する地方といった意味でしょうか。

**デイヴィッド** 地方は「local」。「countryside」は中立的なイメージ。「backcountry」は良い意味で、自然に囲まれ都会の喧騒から逃れるというイメージです。でも良く似ているんですが、バックウォーター「backwater」といえば三〇年前以上昔の生活をしているところ、片田舎のことです。翻訳をする時、同じ田舎という言葉でもずいぶん意味合いが違ってきます。

**鮫島** 文化の違いはどうしてもありますよね。私たちは、英語で「rural, pastoral, countryside」などと書かれてもイメージがつかめません。デイヴィッドも苦労していると思います、その土地の土地柄って言うか、土地の歴史って言うんでしょか、そういうものを背後にした風景などを表現するのにふさわしい言葉は何かと……。

**デイヴィッド** それには写真が必要です。一二枚

の中で九枚は、写真がなくても何とか表現できますが、後の三枚は見ないと書けません。

**鮫島** 私も、デイヴィッドの翻訳を見る時、写真がないと分かりませんから。

**デイヴィッド** それにしても、鮫島さんという素晴らしい監訳者に出会えて、私は本当にラッキーです。

## 国際交渉の場にも米カレンダー

**鮫島** こちらこそデイヴィッドには大変感謝しています。ありがとうございます。

さて、話は変わりますが、二〇年以上前に「ガット・ウルグアイ・ラウンド」がありました。その時に、農村の風景と貿易の自由化は相容れないという議論がありました。EUもやはり農村風景や文化を大事にする国々なので、EUと手を組もうと、JAが代表団をブラッセルに送りました。

**デイヴィッド** 農政に関わる人たちは、何年も努力されていますね。

**鮫島** 当時全中の農政部次長をされていて代表団に参加された薄井寛氏から伺った話ですが、代表団がEUのマクシャリー農業委員に、農業が持つ文化や風景などの重要性をともに主張しようと言った、日本の水田の多面的機能を説明しようとなりました。すると委員は、「I learned that from Japan Rice Calendar」と言われたそうです。本人から聞いた話なので間違いありません。驚きですよ。マクシャリーは、「日本の米カレンダー」

を見て、富山先生の言葉で日本の農業の多面的機能について勉強していたわけです。

**デイヴィッド** すばらしい。その話は初めて聞きました。自分の翻訳がそういう形で役に立ったことは嬉しいです。農業の多面的機能については、富山先生がかつて毎年二、三回、山や土の大切さや、水の上にある東京の危うさなどについて書いていました。それは重要なことで、価値は生産性にあるだけでなく、エコという価値もあります。町に住んでいる人は水の価値も分からない、などもっと書いてほしいと思います。今の時代は、特にエコが大切になってきています。

ところで、以前私は大阪の道明寺という所に住んでいました。近くの二上山にハイキングに行ったのですが、そこでは山のふもとの斜面の土が、そこには木も生えているんですが、山に崩れ込んで、皺の寄ったカーペットのようになっていて驚いたことがあります。

**鮫島** 土が動いているのですか。

**デイヴィッド** そうなんです。ゆっくり動いているんですよ。それを見た時、山に土を留めるのがいかに難しいかを、富山先生がなぜ強調し続けているのかわかるか理解できたんです。なぜ山での米作りに援助が必要かといえば、棚田は土と水を持ちこたえなくてはならないし、人々も林業だけでは生活をしていけないという二つの理由があるからです。もし人々が山での生活を続けることができれば、森の手入れもしてくれらるでしょう。山地での米作りには素晴らしい生態学的価値があると思います。

**鮫島** 私は一九九一年に、全中などのお米の関係の団体や土地改良の団体から寄付金を集め、宇野さんにお願いで、カレンダーをOECDとGATT事務局、そのほかFAOやヨーロッパ、アメリカなどの貿易担当当局にも送ってもらいました。これは今でも続いています。その成果が、マクシヤリーが日本の農業を知っていることにつながった、だから送って良かったと思っています。これが、もし政府が作ったプロバガンダだったら誰も信用しません。これは富山和子という個人が作っている、パーソナルカレンダーです。

**デイヴィッド** 政府は貿易自由化を進めようとしているのでは？特に、安倍首相は……。

**鮫島** どうでしょうか、全ての日本人がそれを望んでいるわけではありません。多くの日本人は、貿易自由化より風景など大事なものを知っているはずですから。自由化を望んでいる人は多くはないと思います。

**デイヴィッド** それは政治家以外だと思えます。

**鮫島** イギリスはどうですか。自由化と風景や文化のどっちを……。

**デイヴィッド** 自由化です！

**鮫島** え！そうなんですか。

**デイヴィッド** それで私はイギリスから逃げました、サッチャーが首相になった時に。

**鮫島** サッチャーの時はそうだったかもしれないが……。だけど田舎に住むことがステータスシンボルとおっしゃいました。政治家が貿易自由化を望むのと田舎に住むのがステータスシンボルであるのは、矛盾していませんか。

**デイヴィッド** 生活を支える農業とステータスシンボルとして農場を持つのは同じではありません。農業は大規模なビジネスですし、助成金等の給付も有ります。

賃金が上がっていないので、イギリスの政府はパンやミルクなど日常的な食物の価格を低くしておこうとしています。ビジネスにおける圧力などもあります、市場に決めさせるのが世界的な傾向です。

## 農村景観と土地改良

**鮫島** 今日の対談は、土地改良建設協会の広報誌に掲載されます。土地改良を日本では「land improvement」と訳していますが、その言葉から何を想像しますか。

**デイヴィッド** 小さい田んぼを大きくすることで機械化が進む、という感じです。

**鮫島** まさにその通りです。土地改良は、小さな田んぼを大きくして生産性を上げること、水路を作ることです。水を田んぼに持つてくると田んぼを大きくする、その二つで「land improvement」。

**デイヴィッド** でも水路もコンクリートになる。

田んぼと田んぼの間もコンクリート……。

**鮫島** それはあり得ません。

**デイヴィッド** 見たことがありますか。

**鮫島** 失敗例です。普通はしません。農業機械が乗り越えられませんから、田んぼの間は土です。コンクリートの水路を作る、パイプラインを作る、

田んぼを大きくする、それが「land improvement」です。でも、風景が失われます。

**デイヴィッド** そうそう。

**鮫島** 昔の日本は本当にきれいだった。私は小さい頃、東京の郊外に住んでいましたが、あまり人も住んでおらず、田んぼと畑と、「common woodland」と「brook」があつてきれいでした。農業機械も入つておらず、人間による手作業での農業でした。炭焼きもやっていました。私が子供の時に見た農村風景と「land improvement」は、実は相容れないものです。

**デイヴィッド** 談山神社から明日香までハイキングをしました。が、「land improvement」を実施した段々畑は少し大きすぎるように感じました。

**鮫島** でも、今日見た八王子山の田んぼは、耕作放棄されました。

**デイヴィッド** そう、残念ですね。私は耕作の苦労を経験したことがないので、コメントするのは難しいですが……。

**鮫島** 風景だけでは人は食べられません。風景を見るのは好きですが、そこでお米を作るのは大変なことです。棚田がきれいで、きれいと言つても、都会の人は棚田を「pastoral」として見ているわけですよ。

**デイヴィッド** 小さい機械でも作ることはできるでしょう。

**鮫島** 可能でしょうが、機械を移動させるのが大変です。

**デイヴィッド** ここは南向きなので、ブドウはできませんか。



雨の中、仰木の棚田をめぐる

**鮫島** ブドウは水はけが悪いと作れません。あの田んぼでブドウは。  
**デイヴィッド** イチジクは？  
**鮫島** だいじょうぶです。あとは、キウイとか……。  
**デイヴィッド** アーモンド？  
**鮫島** アーモンドは無理でしょう。  
今日ここで、棚田を見ながらデイヴィッドと対談したかった。それは、きれいということもあり

ますが、その耕作放棄……。  
**デイヴィッド** このリアリティですね。富山先生がいつもおっしゃっていることです。  
**鮫島** 一本桜は風景として、棚田はリアリティとして見ていただこうと思っていました。  
**デイヴィッド** 米カレンダーの写真は、とても面白い。  
**鮫島** 一つ一つの風景はきれいですが、プロパガンダもあります。でも、守り切れないものもある。  
**デイヴィッド** ポエティックな部分もかなりあります。  
**鮫島** ええ、ノスタルジアとかポエムとか……。  
**デイヴィッド** ノスタルジアは「look back」（後ろ向き）であまりふさわしくない。私は考えているのは、「look forward」（前向き）。全部がダメではないのです、残るとい言葉は使いたくない、「remain」ではなく「living」を使います。やはり、元気で一生懸命の方が……。  
**鮫島** そうですね、ノスタルジアだけではむなし  
い。  
**デイヴィッド** ノスタルジアは心の中にあります。  
**鮫島** 私が子供の時に見た東京の農村風景、まさにノスタルジアですが、今は全部住宅です。私の心の中にしか残っていません。  
**デイヴィッド** 私も現在の家に引越した時、周りは竹藪だらけでしたが、最近住宅ばかりになってしまいました。少しノスタルジアもありますが仕方ありません。  
**鮫島** 来年二〇一八年のカレンダーの写真選定はほぼ終わりました。七月には富山先生の写真が来



**ユーニス・デイヴィ・アレン**  
EUNICE, Davey Allen

**翻訳家**

1953年生まれ、京都府城陽市に在住  
オックスフォード大学（博士課程）にて社会文化人類学を専攻  
大阪外大・大阪大にて日本語及び日本事情を学び、社会人類学の書籍や生命科学論文等を多数翻訳。

1998年から富山和子先生の「日本の米カレンダー」の翻訳を始め、先生の著書「水と緑 日本の原風景」や「水と緑の国、日本」も翻訳。  
趣味は、サイクリング・水泳・写真

ます。今年はずっと良い翻訳をやりましょう。  
本日は、本当にありがとうございます。天気もずっと良ければよかったのですが。  
**デイヴィッド** 今もまだ足が濡れています。農村の生活が身をもってわかるような気がしました。こちらこそ、どうもありがとうございます。  
「日本の米カレンダー」に関するお問い合わせは、国際カレンダー(株) 〇三・五八二九・四一〇〇まで。ホームページは [okome.ne.jp](http://okome.ne.jp)